

第75次 印旛地区教育研究集会 特別支援教育
第13分科会 特別支援教育

研究主題

さまざまな変化に対応した、一人一人の教育的ニーズに応じた
指導・支援の推進と体制づくり
～地域の特別支援教育コーディネーターの資質向上を目指した取り組み～

佐倉市Cブロック
佐倉市立井野中学校
佐倉市立西志津中学校
佐倉市立青菅小学校
佐倉市立小竹小学校
佐倉市立上志津小学校

1 研究主題

さまざまな変化に対応した、一人一人の教育的ニーズに応じた
指導・支援の推進と体制づくり

～地域の特別支援教育コーディネーターの資質向上を目指した取り組み～

2 主題設定の理由

今から 22 年前（平成 15 年）に、児童生徒への支援を充実させるために「今後の特別支援教育の在り方について（最終報告）」において特別支援教育コーディネーターの役割と専門性が示された。また、平成 19 年度には「特別支援教育の推進について（通知）」において、各学校におけるコーディネーターの指名やその役割が示された。

その後、障害のある方を取り巻く様々な法令等の改正が進められ、平成 28 年度には「障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律」の施行により、公立学校には「合理的配慮の提供」が求められている。

それらの通知に伴い、各学校にそれまではなかった「特別支援教育コーディネーター」（以下コーディネーター）が設置され、現在に至っている。コーディネーターについては、管理職や養護教諭、特別支援学級担任が担当している学校が多く、専任のコーディネーターを配置している学校は少ないのではないと思われる。そして、校内の事情によっては、経験の有無や年数を問わずコーディネーターに指名されている。その資質向上をさせるための取り組みについては、市や県などでそれぞれ研修会を受けているものの、役割を十分に果たせているかについては不安が残る。

学習指導要領にある通り、現在学校では、一人一人の発達の状態に応じた教育活動の実現が求められている。そのためには、支援を必要とする子どもの実態を確実に把握し、その状態に応じた指導や支援を適切に行い、主体的に活動したり、友達と協働的な活動ができるようにしたりする必要がある。

「通常の学級に在籍する特別な教育的支援を必要とする児童生徒に関する調査」（2022 年 文部科学省）によると、特別な教育的支援を必要とする児童生徒は推定 8.8% の割合で存在するとされている。このことからわかるように、近年特別な対応が求められるケースが増えてきており、コーディネーターだけでなく、学校教育に携わる全ての職員がそれらのニーズに対応する多様なスキルが求められている。しかし、それに反して、学校の業務は多岐にわたり、その対応に十分な時間がとれないのが現状である。コーディネーターとして自分の行っている仕事が正しいのかも確かめる余裕もなく、不安感や孤立感を感じている職員もいるのではないかと考えられる。実際に市内の教職員対象に行った第 1 回目のアンケートの結果からも、「コーディネーターとしての役割を知りたい。」「特別支援教育については全職員が継続的に学ぶ機会が必要だと感じる。」等の回答があった。

そこで今回、一つの学校や一担任だけで研修を行うのではなく、地域全体で協力をして研修を行い、特別支援教育に関する知識や情報等の共有をすることにより、「自分は一人じゃない、つながっている」と実感することで孤立感をなくしたい。さらにコーディネーターの役割を適切に果たせるようにするため、地域のコーディネーターの資質の向上を図りたいと考え本主題を設定した。

3 研究仮説

特別支援教育に関する知識や情報を発信し、市内全体で共有すれば、地域の特別支援教育コーディネーターの資質向上が図れるであろう。

(1) コーディネーターの役割についての研修

西志津中学校・井野中学校・上志津小学校・青菅小学校・小竹小学校の5校（以下、提案校）が主に特別支援教育の就学に関する年間計画を持ち寄り、年間計画のひな型を作成した。それを市内の教職員に情報を提供し、コーディネーターの経験が浅い教職員でも、仕事の内容を参考にすることで資質の向上が図れると考えた。

(2) 「コーディネーター通信」の発行

「志津ブロックコーディネーターの会」を発足し、自主研修を行った。そこで得た情報や書籍の紹介などを「コーディネーター通信」（資料編P6～15）にまとめ、その資料を佐倉市の共有システムを使い、データで配信をすることで共有化を図ることとした。

(3) 「みんなの広場☆オンラインサロン」の実施

佐倉市の共有システムを活用し、「みんなのひろば」☆特別支援オンラインサロンを開催し、日頃の悩み相談や小中の情報交換などを行うこととした。

4 研究計画

提案校が共同で研修を行い、素案を作成する。

<令和6年度>

4月26日	・概要説明 (特別支援教育に関わる職員の資質向上を目指し、勉強会を開くこと、特別支援教育コーディネーターだよりを発行することなどを確認した。)
5月29日	・アンケート①の集計を受けて、残りの会議の内容を決定する。
7月29日	・研究主題等の検討 ・仮設の確認 ・今後の研修計画について ・提案文書の作成について

8月6日	・講師（印旛特別支援学校コーディネーター）を招いての理論研修 ・今後の研修の確認
10月30日	・対応事例検討会（学習面における困難さ・生活面における困難さについて）
12月18日	・オンラインサロンの在り方について
2月26日	・研修のまとめ 進路関係 アンケート分析

<令和7年度>

4月16日	・今後の研修の確認 「みんなのひろば」☆多特別支援サロン」の今年度の開催計画
6月11日	・第2回 「みんなのひろば」☆多特別支援サロン 実施
7月2日	・第3回 「みんなのひろば」☆多特別支援サロン 実施
7月18日	・提案文書の作成及び資料の作成

5 研究の実践

（1）コーディネーターについて

①コーディネーターの役割

- ・学校内の関係者や関係機関との連絡、調整
- ・各学級担任への支援
- ・巡回相談員や専門家チームとの連携
- ・学校内の児童生徒の実態把握と情報収集の推進

千葉県教育委員会発行 「令和5年度版 特別支援教育指導資料」P8より

②コーディネーターの年間活動例

月	小学校	中学校
4	・特別支援教育について職員へ向けて共通理解を図る。 ・支援が必要な児童の情報収集、共通理解 ・継続して在籍している児童の共通理解（交流のもち方や成績について確認） ・合理的配慮の提供についての保護者への周知（ことばの教室の内容を含む） ・個別の教育支援計画の作成（保護者との合意形成） ・個別の教育支援計画の回収・保管	・特別支援教育について職員へ向けて共通理解を図る。 ・支援が必要な生徒の情報収集、共通理解 ・継続して在籍している児童の共通理解（交流のもち方や成績について確認） ・合理的配慮の提供についての保護者への周知（ことばの教室の内容を含む） ・個別の教育支援計画の作成（保護者との合意形成） ・個別の教育支援計画の回収・保管
5	・支援が必要な児童について学年会等で報告、共通理解の促進	・支援が必要な生徒の実態把握、問題状況分析→必要に応じて医療機関や外部と連携

	・ 具体的な支援体制の検討 (校内での人・場所・時間の調整) ・ 個別指導計画作成、前期の目標設定 (ことばの教室を含む) ・ 教育課程の作成、提出	・ 具体的な支援体制の検討 (校内での人・場所・時間の調整) ・ 個別指導計画作成、前期の目標設定 (ことばの教室を含む) ・ 教育課程の作成、提出
6	・ 応援計画の作成、情報提供 ・ 児童の困難さに応じ保護者と随時面談	・ 生徒の困難さに応じ保護者と随時面談
7	・ 6年生の就学支援に関する情報提供や 連絡調整 (支援学校、中学校支援級、通常級) ・ 交流のもち方について確認	・ 面談などで保護者と担任の情報交換 (情報提供含む)
8	・ 特別支援教育研修推進や研修への参加 (障害のある児童への基礎的理解) (学校における手話言語等推進研修)	・ 特別支援教育研修推進や研修への参加 (障害のある児童への基礎的理解) (学校における手話言語等推進研修) ・ 生徒と担任への具体的な支援方法検討
9	・ 市の教育支援委員会に審議にかける 必要のある児童がいないかを確認、 必要に応じて校内支援委員会を開催。 ・ 次年度の1年生見学や体験、面談など 就学指導。 ・ 小学6年生対象の就学相談	・ 新たに支援が必要と考えられる生徒の情報 収集 ・ 市の教育支援委員会に審議にかける 必要のある児童がいないかを確認、 必要に応じて校内支援委員会を開催。 ・ 小学6年生対象にした体験入級により 保護者面談、教育支援委員会
10	・ 前期の目標に対する評価と修正 ・ 後期の目標の設定 ・ 入学説明会や就学時検診で特別支援に ついての話	・ 前期の目標に対する評価と修正 ・ 後期の目標の設定
11	・ 実践に対する経過報告、共通理解	・ 実践に対する経過報告、共通理解
12	・ 実践に対する経過報告、共通理解	・ 実践に対する経過報告、共通理解
1	・ 次年度に向けて学習と生活の実態把握	・ 次年度に向けて学習と生活の実態把握

2	・ 支援が必要な児童の実態把握	・ 支援が必要な生徒の実態把握
3	・ 後期の目標に対する評価と修正 ・ 個別の教育支援計画に反省と引継ぎ記入、コピーを残して原本は保護者へ渡す。(ことばの教室を含む) ・ 進学する児童の引継ぎ資料作成 ・ 次年度の学級編成(交流含む) ・ 教育課程の報告提出	・ 後期の目標に対する評価と修正 ・ 個別の教育支援計画に反省と引継ぎ記入、コピーを残して原本は保護者へ渡す。(ことばの教室を含む) ・ 進学する生徒の引継ぎ資料作成 ・ 次年度入学予定の生徒の支援の引継ぎ ・ 次年度の学級編成(交流含む) ・ 教育課程の報告提出

③校内支援委員会

- ・ 困難さを抱えた児童生徒、不適応を起こしている児童生徒などについての情報共有。手立てを話し合い、具体的な対応の方向性を検討する場とする。
- ・ 支援体制の検討をする。(学級での配慮、学年での支援、校内体制による支援、個別指導の体制検討など)
- ・ 特別支援学級、特別支援学校への就学が望ましい児童生徒についての検討を行う。児童生徒や保護者の要望を尊重した上で、就学が適切と判断された場合には、佐倉市の教育支援委員会へ審議を依頼する。

④教育支援について

- ・ 保護者からの訴え、担任の気付きなどにより、学習面や生活面についての実態把握を行う。
- ・ 段階を踏んで保護者との面談を実施。学校や家庭での様子、合理的配慮について検討し、その後改善されたかを話し合う。
- ・ 必要に応じて支援学級の見学、体験をするなど、就学についての相談を行う。
- ・ 児童生徒や保護者の同意を得た上で、支援学級での学習や生活を体験する。体験を行った上で、就学についての希望を改めて確認する。

(2) コーディネーター通信の発行

提案校が隔月で対面やオンラインで学習会を行い、そこで学んだ情報をコーディネーター通信に掲載した。少しでも指導のヒントになればと思い、佐倉市内の全教職員を対象として発行した。(資料編 P 6～15)

No.	発行日	発行方法	内容	担当
1	令和6年 5月13日	各学校の特別支援学級担任向けにFAXで連絡し、各学校で共有してもらうようにした。	・ 発行について ・ 「特別支援」の考え方について ・ アンケート①の協力依頼	井野中 青菅小 上志津小

2	8月21日	校務支援のメールを使い、各学校に送信後、教職員へ送信。	・特別支援フレッシュサポート事業について ・書籍の紹介（2冊） 「発達障害の子のライフスキルトレーニング」 「発達障害・グレーゾーンの子がグリーンと伸びた声かけ・接し方大全」 ・みんなのひろば☆特別支援サロン開設について	西志津中 小竹小
3	11月7日	同 上	・みんなのひろば☆特別支援サロンの紹介 ・第1回目のアンケート集計結果の報告	井野中 青菅小
4	令和7年 1月17日	同 上	・第1回みんなのひろば☆特別支援サロンの期日と内容のお知らせ（1月29日） ・「対応事例」と「コーディネーターの1年間の活動例」の紹介 ・書籍の紹介 「童話で学ぶ〇年の漢字」	西志津中 小竹小
5	5月13日	同 上	・第2回、第3回「みんなのひろば☆特別支援サロン」の期日と内容のお知らせ（6月11日・7月2日） ・部会で購入した書籍（10冊）の紹介 ・研修のまとめのアンケート②のお願い	井野中 青菅小 上志津小
6	6月30日	同 上	・第2回「みんなの広場☆特別支援オンラインサロン」開催報告（小中情報交換フリートーク） ・第3回「みんなの広場☆特別支援オンラインサロン内容のお知らせ（教科の指導方法について） ・書籍の紹介	上志津小 小竹小

（3）「みんなのひろば」☆特別支援サロンでの情報提供

市内の教職員を対象に行った1回目のアンケートの集計結果（資料編P1～3）から、多くの教職員が児童生徒への対応の仕方などに、難しさを感じていることがわかった。

その理由の一つに、特別支援学級の増設により、特別支援学級の担任を初めて担当する教職員が増え、不慣れな指導に不安を感じていることが挙げられる。

またコロナ感染が広まる前は、対面での研修会などが多く開催され、教職員がお互いに困っていることなどについて直接質問したり、相談したりする機会があったが、その機会が減ってしまったことも考えられる。

さらに、特別支援学級だけでなく、通常の学級に在籍している児童生徒の中でも、学習や生活に困難さを感じている様々な子ども達への対応が多岐に渡り、指導や支援が難しくなっていることも理由の一つとして考えられる。

そこで、そんな教職員の悩みを少しでも改善していくために開設したのが『「みんなのひろば」☆特別支援オンラインサロン』である。

最初は、「学習面」「生活面」から10項目を取り上げて、書籍を参考に対応の仕方を紹介した。(資料編P16) 佐倉市内の教職員に、随時書き込みをしてもらう場を作った。不安で困っている教職員が誰でも気軽に質問ができ、それに対して誰でも答えることができるようなサロン(チャットなどの方法を利用)を目指してきた。

第1回目(令和7年1月29日)のオンラインサロンでは、ミニ講座として、提案校の代表が講師となり、「ストレスフリーのマインドセット～子どもの行動問題に余裕をもって対応するマインドの作り方～」について講義を行った。その中で、「つい叱っちゃう10の理由」や「8つのマインドセットの方法」を学んだ。(資料編P17) その後で簡単な情報交換の場を設けた。初回ということもあり、20名程度の参加ではあったが、参加者からは「明日から心に留めておきたい内容で、大変勉強になった。」「子どもたちの成長のために何が必要か、改めて考えることができた。」などといった肯定的な感想が聞かれた。

第2回目(令和7年6月11日)のオンラインサロンでは、小中学校の教職員で情報交換会を行った。日頃から疑問に思っていること(中学校の上履きは紐靴なのか。中学校の宿題はどうなっているのか。中学校入学までにつけておいた方がよいことは何か等。)をざくばらんに聞きあう機会とした。日頃の疑問を解消するだけでなく、小学校の担任としては、中学校入学までに目指したい児童の姿がイメージできた。また、中学校の教職員も、小学校の情報を得る機会になった。参加校は、3校7名という少ない参加者ではあったが、有意義な会であったという感想が聞かれた。

第3回目(令和7年7月2日)のオンラインサロンでは、日常に生かせる教科指導について、フリートークを行った。これは、第2回のオンラインサロンを実施した時に、「日頃自分たちが指導している国語や算数などの授業の仕方が果たしてそれでよいのか疑問に感じていて、他校の教職員がどのような授業を行っているのか知りたい。」という意見が出され、それを受けてこのようなテーマを設定した。

知的学級では、「分かち書き」をしていない文章を一つの言葉のまとまりとして読む練習をしていたり、1日1ページずつ指定のプリントを視写することで、語彙を増やしたり、漢字の練習をさせたりしているといった意見が出された。

自閉症・情緒学級では、デジタル教科書に入っているワークシートを活用しているといった意見が出された。また、弱視学級の先生から、文字の習得や視覚認知の弱い児童生徒に適した指導についての質問が出され、具体的な指導法のアドバイス等が出された。

この回は、第2回目のオンラインサロンよりも出席者が少し増え(5校10名)、さらに

弱視学級の担任の先生に参加していただけたことで、より深い研修の機会となった。

6 成果と課題

【 成 果 】

- コーディネーターについて研修を重ねることで、「特別支援教育コーディネーター」としての自覚や責任がより明確になり、校内の特別支援教育に意欲的に関わろうとするきっかけをつくることができた。
- 市内の教職員対象に、「コーディネーター通信」を通じて情報を発信することで、コーディネーターとしての在り方を見直す機会を提供することができた。
- 第2回アンケート結果（資料編P4～5）より、教職員の日頃の悩みを解消するヒントが得られたという回答が多かった。市内の学校のコーディネーターの資質の向上を図ることができた。
- 対面ではなく、オンラインを通じて研修会やサロンを開催することにより、学校間の横のつながりが強まり、不安感や孤立感を軽減することができた。また、参加者の時間的な負担を軽減することができた。

【 課 題 】

- 知識や情報等の共有する手立てとして、①「研修会の実施」②「コーディネーター通信の発行」③「オンラインサロン」の3つの活動を行った。いずれも、日頃の業務をこなしながらの取り組みだったため、多くの回数を行うのは難しかった。仕事の優先順位を考えた時に、我々研修をしているメンバーに限らず、市内の教職員はまず学級やその他の校務分掌の仕事を優先的にを行うため、「特別支援教育コーディネーター」に特化した研修は、設定として難しかったかもしれない。
- オンラインサロンについては、立ち上げた時期が遅かったため、全部で3回しか開催できなかった。また、ポスターを作成・配付をし、なるべく多くの教職員に参加をしていただくよう働きかけたが、残念ながら予想以上に少ない参加者であった。その原因の一つとして、校務支援システムの使い方が、教職員に十分に浸透していないことが考えられる。（今回、コーディネーター通信の発行やオンラインサロンの開催のお知らせは、第2回以降は全て、市の校務支援のメールを通じて教職員に周知したが、十分に伝わらなかった学校があった可能性が考えられる。）もしかしたら、紙で印刷したものを各学校に配付したり、FAXで配信したりする方がより多くの教職員に周知できたのかも知れないと考える。

以上の理由から、コーディネーターの資質向上には、残念ながら十分な成果を挙げることはできなかったと感じている。今回の提案で研修を終了するのではなく、可能な範囲で研修を続けていきたい。また、今回立ち上げたオンラインサロンについても、今後も継続していきたいと考えている。

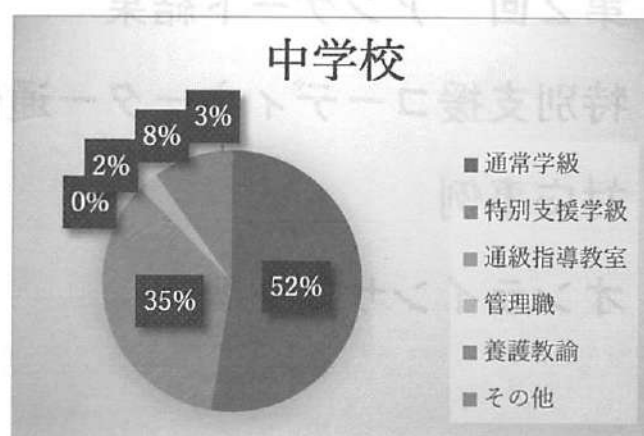
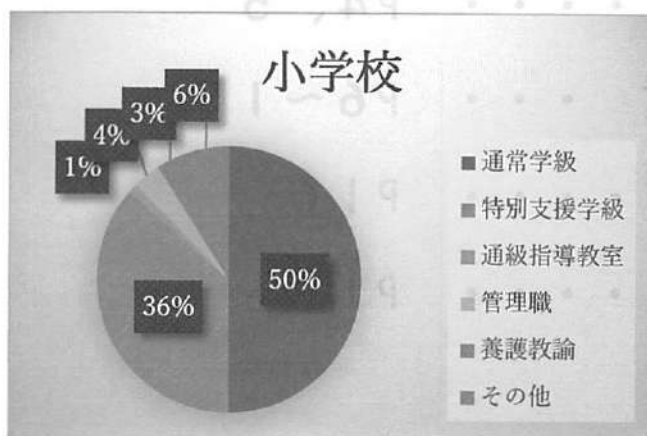
資料編

1. 第1回 アンケート結果 P1～3
2. 第2回 アンケート結果 P4、5
3. 特別支援コーディネーター通信 P6～15
4. 対応事例 P16
5. オンラインサロン関係 P17

資料Ⅰ：第Ⅰ回アンケート FORMS で実施（128名の方から回答を頂きました）

○回答者の所属について

所属校種	通常学級	特別支援学級	通級指導教室	管理職	養護教諭	その他	総計
小学校	44	32	1	3	3	5	88
中学校	21	14	0	1	3	1	40
総計	65	46	1	4	6	6	128



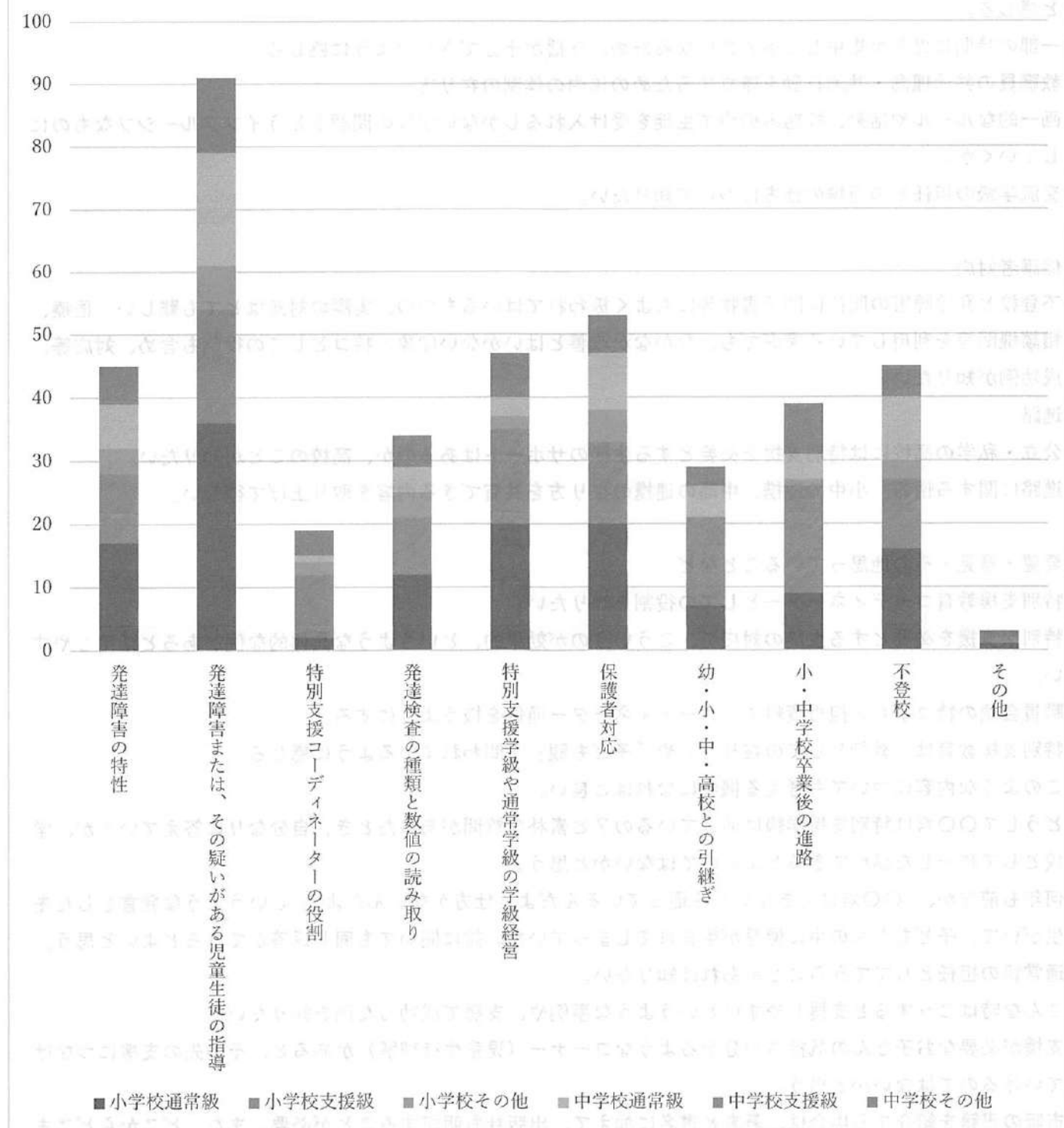
○関心のあるテーマについての回答（複数回答可）

【項目】

- ① 発達障害の特性について ②発達障害または、その疑いがある児童生徒の指導について
 ③ 特別支援コーディネーターの役割について ④発達検査の種類と数値の読み取りについて
 ⑤特別支援学級や通常学級の学級経営について ⑥保護者対応について
 ⑦幼・小・中・高校との引継ぎについて ⑧小・中学校卒業後の進路について
 ⑨不登校について ⑩その他

項目	小学校通常級	小学校支援級	小学校その他	中学校通常級	中学校支援級	中学校その他
①	17	11	4	7	5	1
②	36	18	7	18	7	5
③	2	10	2	1	3	1
④	12	9	4	4	3	2
⑤	20	15	2	3	6	1
⑥	20	13	5	9	4	2
⑦	7	14	0	5	3	0
⑧	9	17	1	4	7	1
⑨	16	11	3	10	4	1
⑩	1	1	0	0	1	0

関心のあるテーマ



○第Ⅰ回アンケートの自由記述欄に記載されていた回答（一部抜粋）

①授業や指導について

- ・ 特別支援学級の生徒の授業を担当しているが対応が適しているのか、不安に思うときがある。
- ・ 算数や国語への苦手意識が高く、なかなか学習意欲がでない。どの程度頑張らせるべきかの加減が難しい。
- ・ わがままか、本人の特性か迷うことがある。どこまでを特性としてみて支援し、どこからを指導すべきかこまっている。
- ・ 指示が入らない。集団行動が難しい。衝動性を抑えられない児童生徒の対応。

②支援体制の課題

- ・通常学級にも支援を要する生徒は少なくない。特別支援教育については全職員が継続的に学ぶ機会が必要だと感じる。
- ・一部の時間に児童が集中して多人数になるため、支援が十分できないように感じる。
- ・教職員の共通理念・共通行動を確立するための校内の体制の在り方
- ・画一的なルールや活動、枠組みの中で生徒を受け入れるしかない学校の問題をどうインクルーシブなものにしていくか。
- ・交流学級の担任との連携の仕方について知りたい。

③保護者対応

- ・不登校と発達障害の関係は関連書物等にもよく扱われてはいるものの、実際の対応はとても難しい。医療、相談機関等を利用している家庭でも、なかなか改善とはいかない印象。特コとしての役割も含め、対応等、成功例が知りたい。

④進路

- ・公立・私学の高校には特別支援を必要とする生徒のサポートはあるのか、高校のことが知りたい。
- ・進路に関する情報、小中の連携、中高の連携の在り方を共有できる内容を取り上げて欲しい。

⑤要望・意見・その他思っていることなど

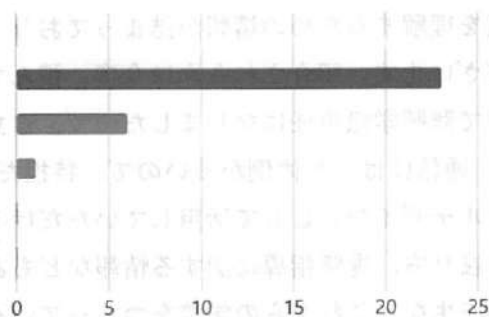
- ・特別支援教育コーディネーターとしての役割を知りたい。
- ・特別な支援を必要とする生徒の対応で、こういうのが効果的、というような具体的な例があると活用しやすい。
- ・職員会議の特コからの担当資料で、コーディネーター通信を扱うようにする。
- ・特別支援教育は「教師としての在り方」や「子ども観」を問われているように感じる。
このような内容についても考える機会になれば良い。
- ・どうして〇〇君は特別支援学級に通っているの？と素朴な質問があったとき、自分なりに答えているが、学校として統一した話ができるとよいのではないかと思う。
- ・何年も前だが、「〇〇君はできないから通っているんだよ。仕方がないんだよ。」というような発言をした先生がいて、子どもたちの中に偏見が生まれてしまっていた。誰に聞いても同じ返答ができるとよいと思う。
- ・通常級の担任としてできることがあれば知りたい。
- ・こんな時はこうすると支援しやすいというような事例や、支援で成功した例を知りたい。
- ・支援が必要なお子さんの気持ちが分かるようなコーナー（児童生徒理解）があると、その先の支援につなげていけるのではないかと思う。
- ・市販の書籍を紹介する場合は、著者と書名に加えて、出版社も明記することが必要。また、どこからどこまでが引用なのか、明示することも大切である。複数の学校に配付するので、著作権の扱いは慎重にした方がよい。
- ・校内体制の現状把握と支援の手立てについてまとめるのはどうか。新担または再任用のみの学校があるのが現状。
- ・かけ算九九の習熟を楽しくできる「ククハチジュウイチ」という無料サイトが、ICTコーディネーターを通じて各学校で利用が広がっているが、中学校でも個別学習に活用できるサイトである。このような、即役立つ教材やサイトの情報を提供する号もあると、興味をもつ方が増えると思う。
- ・特別支援教育コーディネーター主催の勉強会などがあれば参加してみたい。

資料2：第2回アンケート FORMS で実施（30名の方から回答を頂きました）

1. あなたの役職を教えてください。

[詳細情報](#)

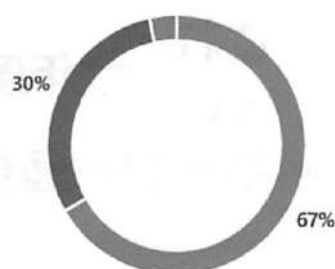
● 管理職	0
● 特別支援担任	23
● 通常学級担任	6
● その他の教諭または講師（専科など）	1
● 特別支援員	0
● その他	0



2. 「コーディネーター通信」は読んでいただけましたか。

[詳細情報](#)

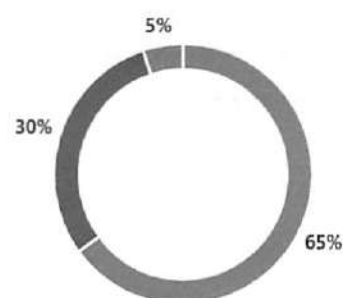
● 毎回読んだ	20
● 時々読んだ	9
● 読んでいない	1



3. 「コーディネーター通信」についての感想をお聞かせください。（複数回答可）

[詳細情報](#)

● 児童・生徒の指導に役立つ情報が得られた。	26
● 書籍の紹介が役に立った。	12
● その他	2



4. 「コーディネーター通信」について、より具体的な感想がありましたらご記入ください。（15件の回答いただきました。）

（回答例）

- ・各教科の具体的な教材を知りたい。写真などで見たい。（漢字はカルタ、文章作りは・・・読み取りは・・・算数の計算は・・・時計は・・・図形は・・・など。）
- ・内容がよいので、これからも無理なく続けて発行できたらよいのではないかと思います。
- ・コーディネーター通信を通して、新しい情報を得ることができ、実践に生かすことができました。また、仲間とのつながりを感じることができました。
- ・日頃の児童への接し方を振り返ることができました、いつもありがとうございます。

特別支援コーディネーター通信

令和6年5月13日

第1号

新学期がスタートし、早くも1か月が経ちました。GWも終わり、そろそろ新学期の疲れが出る頃かと思いますが、いかがお過ごしでしょうか。

この度、一部会の志津・井野ブロックの代表5校（井野中、西志津中、青菅小、小竹小、上志津小）で、特別支援コーディネーター便りを発行する運びとなりました。隔月で学習会を行い、そこで学んだ情報をこの「特別支援コーディネーター通信」で発信したいと考えています。少しでも、先生方や子ども達のためになれば幸いです。

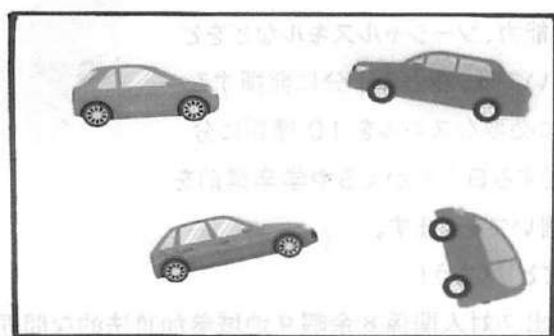
どうぞよろしくお願いいたします。



- ☆ だらっ広いアスファルトに、「駐車場」と書かれた看板が置いてあるとします。(図A) たしかにこんなところでも、車は停められます。でも、停めにくいし、効率も悪いです。事故を起こす確率も上がりますよね。では、アスファルトに線を引いて、駐車スペースを区切るとどうでしょう。(図B)
- 「駐車場に空きはあるか」「左右の車とはどれくらい距離を取ればよいか」「あと何台停められるか」など多くの人に「パッと見」でわかるようになりました。この白線を引く作業こそが「特別支援教育」です。

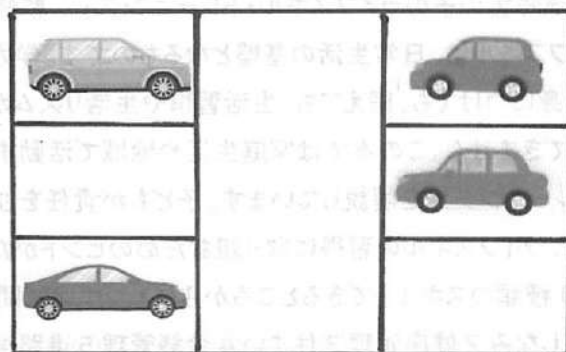
(図A)

駐 車 場



(図B)

駐 車 場



わからないことはないけど、あればわかりやすいサポート。

できなくはないけど、あればやりやすいサポート。

できなかったけど、あればできるようになるサポート。

発達になんらかのつまづきがあったり、障害をもっていたりして、困りごとを抱える子どもたちのためにわたしたちが白線を引くことができれば、彼らの「困った！」がグッと軽くなります。

今のままじゃ車を停めることがむずかしいあの子が、どんな線を引いたら駐車できるだろう。

そんなことを考えながら、一人ひとりをよく見て考えて、サポートする。それが「特別支援」です。

出典 平熱著「発達が気になる子の育て方」より



後日、佐倉市内の先生方を対象に、特別支援についてのアンケートを実施する予定です。今後、研修を進めていく上で、みなさんの普段困っていることやどのような情報を知りたいかなど、ご意見を参考にさせていただきます。ご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

夏休みもあと1週間程度となりました。つかの間のお休みでしたが、先生方もリフレッシュできていたら良いと思います。9月からもがんばりましょう。第1号では先生方にアンケートに協力していただきありがとうございました。

現在、「たまごプロジェクト」「大学生ボランティア」などの事業がありますが、「特別支援フレッシュサポート事業」についてご紹介します。これは、「第3次千葉県特別支援教育推進基本計画」の中で、大学との連携を強化し、教員を目指す学生が特別支援教育に関する内容を積極的に体験したり、学んだりできるように考えて実施されているものです。

県内の大学、市町村教育委員会及び県立特別支援学校と連携し、希望する公立幼稚園、小学校、中学校、義務教育学校、特別支援学校及び幼保連携型認定こども園に、学生ボランティアが派遣されます。

(1)派遣期間及び活動日…6月から翌年3月まで。(主に月曜日から金曜日 午前9時から午後4時の範囲で相談)
1人当たり10日から20日程度。

(2)活動内容…発達障害を含む障害のある幼児児童生徒の学習指導や学校(園)生活への支援

特別支援コーディネーターの役割の1つに、「図書館(室)の役割」があると捉えています。前回、第1号でもおすすめの書籍を紹介しましたが、今後も同様に紹介していこうと考えています。今回は下の2冊を紹介します。興味のある方はぜひ読んでみてください。

おすすめの本の紹介

「発達障害の子のライフスキル・トレーニング」 監修梅永雄二 講談社

ライフスキルは、日常生活の基盤となるものです。学力や運動能力、ソーシャルスキルなどをどれだけ身につけても、鍛えても、生活習慣や生活リズムが乱れていては、能力を十分に発揮することができません。この本では家庭生活や地域で活動するために必要なスキルを10種類に分けてトレーニング法を解説しています。子どもが責任をもって活動する日をむかえる中学卒業前を目処に、ライフスキルの習得に取り組むためのヒントがたくさん書いてあります。



【10種類のスキル】できるところからひとつずつ時間をかけてとりくもう!

①身だしなみ②健康管理③住まい④金銭管理⑤進路選択⑥外出⑦対人関係⑧余暇⑨地域参加⑩法的な問題

【本書の内容構成】

① なぜライフスキルが重要なのか ② ソーシャルスキルとどう違うのか ③ 10種類のライフスキル・トレーニング
④ トレーニングとサポートでトラブルが減る

「発達障害・グレーゾーンの子がグリーンと伸びた 声掛け・接し方大全」 小嶋悠紀 講談社
特性があるお子さんと上手に接する時に「難しい。」「どうしたらいいんだろう。」「悩んだこと、迷ったことはありませんか。この本では、そういったお子さんたちとの関わり方が場面ごとにたくさん用意されています。著者ご自身が、実際に現場で使って「効果があった」と実感できた支援の考え方やスキルです。「発達障害のある子が見ている世界・感じていること」「上手に支援するための『目のつけどころ』と原則」「現場で本当に効果があった『ほめ方・教え方』」「こどもの『こだわり』との向き合い方」などどのページから開いても私たちがすぐに活用できることが見つかるはずです。



『みんなのひろば』☆特別支援サロン を 開設します!
先日のアンケートを受けて、先生方からの困りごとにごにお返事できたり、情報を共有できたりする場があればよいのではないかと考えました。ただいま鋭意作成中です。詳細は次号でお知らせします!

芸術の秋、スポーツの秋・・・みなさん学校行事でお忙しい時期かと思います。

第1号では、アンケートへのご協力ありがとうございました。アンケート結果を見ると小学校、中学校、どの先生方もそれぞれの悩みや不安を抱えて日々のご指導にあたっていることが伝わってきます。

1人で悩まず、仲間と支え合うことができれば・・・そんな思いでコーディネーター通信を発信しています。

① アンケート結果報告

5月に、先生方がお困りのことや知りたい情報についてアンケートにご協力頂きありがとうございました。その結果についてお知らせします。(詳しくは2ページ参照)

結果を受けて、8月に今後のコーディネーター通信の内容や活動を相談しました。下記で、その決定した活動について詳しくご紹介します。



② 「みんなの広場」☆特別支援サロン 開設!!

アンケートの結果を受けて、9月からteamsの「全教職員」チャンネルの中に、

「みんなの広場」☆特別支援サロンを開設しました。

チャットでは、市内の先生方の誰が読んでもOK!書き込んでもOK!

情報共有の場として活用してもらえればと思います。

以下についても「みんなの広場」で情報共有できるようにしていますので、チャットやファイルからぜひご活用ください。

☆対応事例(作成中)

それぞれの事例について、どう見立て、どのような対応が考えられますか?

書籍などを参考にしながら事例をいくつか紹介しています。

正解はありませんので、誰でも遠慮なく書き込んでください。みんなで一緒に考えられたら嬉しいです。

☆特別支援教育コーディネーターの1年間の活動例(主に就学に関わるもの)

他の学校はいつ、どんなことをしているのでしょうか?

西志津中・井野中・上志津小・小竹小・青菅小それぞれの年間計画を持ち寄って、活動例をまとめてみました。

内容を読んで頂き、「こんな活動をしているよ!」というものがあれば、ぜひ教えてください。(色を変えて加筆)

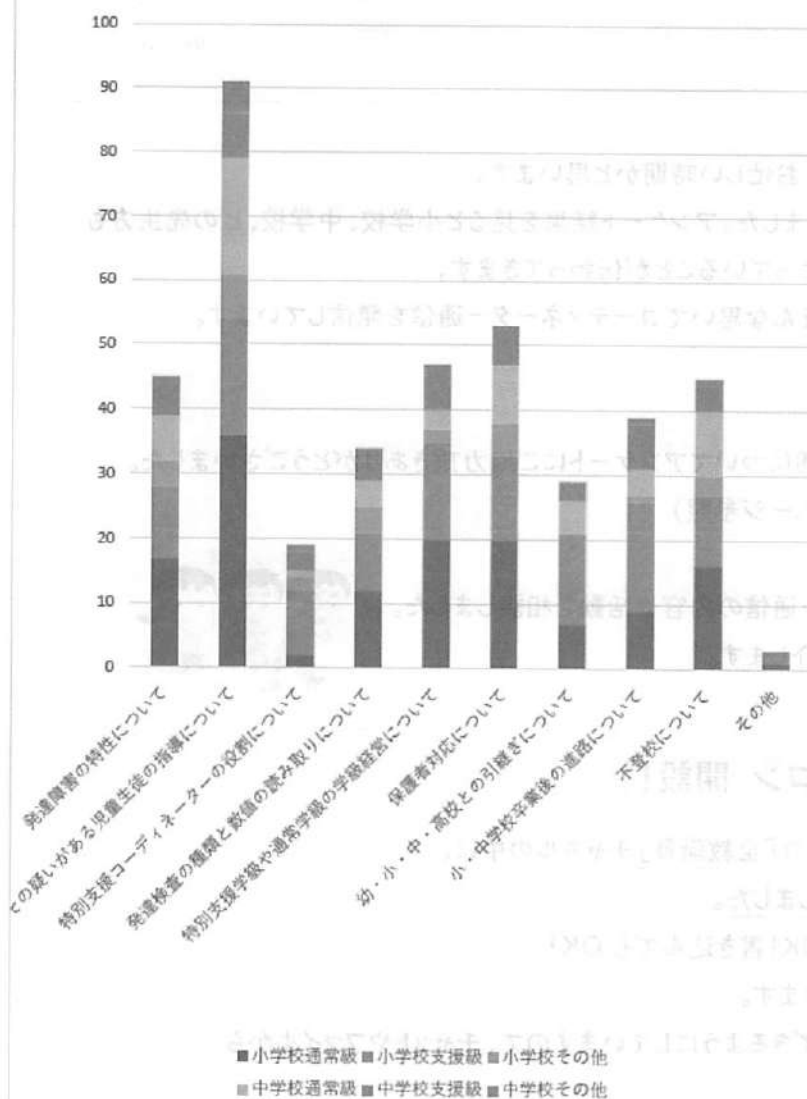
★詳しくは→→→ teams「全教職員」チャンネル「みんなの広場」☆特別支援サロン

今回アンケートの中で、「即役立つ教材やサイトの情報を提供する号もあると、興味をもつ方が増えると思います。」というご意見を頂き、併せて無料で使える個別学習に活用できるサイトも教えて頂きました。

かけざんマスター ククハチジュウイチ | ソフトウェア | 学校教育情報処理研究会 (seipsg.main.jp)

ご回答くださった先生、貴重な情報提供ありがとうございました!!先生方も、ぜひご活用ください☆

関心のあるテーマ



＜アンケート結果＞

・佐倉市内で128名の先生方に回答して頂きました。お忙しい中、ご協力ありがとうございました！！

・支援学級担任、通常級担任合わせて90名以上が発達障害またはその疑いがある児童生徒の指導について最も課題があると感じている、または関心が高いという結果が得られました。

「支援が必要な児童生徒に対する指導方法についての情報をもっと知りたい。」「今の対応で良いのか、不安に思う時がある。」など、自由回答でも104名の先生方がそれぞれの悩みや不安を書いてくださいました。

・次いで多かったのは保護者対応についてです。

「支援が必要な児童の保護者に対してどう伝えたら良いのか?」「保護者に対する支援も必要な場合がある。」など、先生方が日々模索しながら一生懸命に児童や保護者に向き合っていることがわかります。

・コーディネーター通信への要望・意見などでは、下記のような分析結果となりました。

方法	貴重な事例	事例	連携	定義
保護者	特別支援	情報	勉強	今後
在り方	対応	機会	具体的事例	生徒
実践例				担任

・ここでは「校内体制の現状把握と支援の手立てについてアンケートはどうか」というご意見がありました。地区によっては校内の特別支援担当が再任用の先生や、新任の先生だけの学校もあるのが現状だそうです。

・自由記述では、「今回のように、オンライン上でつながれるのが良い。」「情報共有の場があると良い。」とのご意見も頂いております。

あっという間の年末年始、先生方それぞれリフレッシュすることができたでしょうか？
今年度も残り3か月、先生方がそれぞれの学校で、それぞれの子どもたちと過ごすのもあとわずかになりました。
今年も、仲間と共に励まし、支い合える一年にしていけたら・・・と思います。



「みんなの広場」☆彡特別支援サロン オンライン開催決定!!

～特別支援の扉を開いてみませんか～

1月29日(水)16:40より、オンラインで情報共有の場をもちたいと思います。

参加方法など、詳しくは一緒にデータで送ったチラシをご覧ください♪

・基本のルールは、「みんなで作ろう温泉(心地よい)サロン」を心がけること。

(冷や水を浴びせるのはナシ)

・市内の先生であればだれでも参加できる。(支援員さんも管理職も含めて)

・入室自由、退室自由

・参加の仕方はそれぞれ。開催中に変更も可能

・聞くだけ・顔出し無しも自由・チャットは常に開放(いつでも発言可能)・チャット内で会話もよし。

・声だし、顔出ししてお話する時間もできれば作ります(ブレイクアウトタイムを作るかどうかは未定)

1. R7 印教研提案に向けての 団体名が決定しました!!

「志津ブロック 特コの会」

今回より特別支援コーディネーター通信の発行者を団体名に変えてあります。

2. ご活用ください♡「みんなの広場」☆彡特別支援サロン

teamsの「全教職員」チャンネルの中にあります!

チャットでは、佐倉市内の先生方の誰が読んでも OK!書き込んでも OK!お気軽にどうぞ!

また、「みんなの広場」には、情報交換の場を設けてあります。



①☆対応事例（作成中）

☆それぞれの事例について、どう見立て、どのような対応が考えられますか？

書籍などを参考にしながら事例をいくつか紹介しています。先生方の何かのヒントになれば・・・と思います。

正解はありませんので、いつでも誰でも遠慮なく対応方法を書き込んだり、タブを増やしたりして下さい。

※ただし、書籍を参考にした場合は出典も併せて記載して頂くようお願いします。（著作権があるため）

☆↓↓↓現在見られる内容はこちら↓↓↓☆

（学習編）

- ・学習に集中できない ・教室を飛び出してしまう ・文字を読むことが苦手
- ・字がうまく書けない ・算数でつまづきがある ・図工などの制作ができない

（生活編）

- ・忘れ物が多い ・思わず手が出てしまう ・相手の気持ちが読めない ・パニックを起こす

②☆特別支援教育コーディネーターの1年間の活動例（主に就学に関わるもの）

他の学校は就学に向けていつ、どんなことをしているのでしょうか？

西志津中・井野中・上志津小・小竹小・青菅小それぞれの年間計画を持ち寄って、活動例をまとめてみました。

内容を読んで頂き、「こんな活動をしているよ!」という事がある方ぜひ教えてください。（データに色を変えて加筆）

↓☆特コ活動例より一部抜粋（1月～3月）

	小学校	中学校
1	・次年度に向けて学習と生活の実態把握 （必要に応じて面談やアンケートの実施）	・次年度に向けて学習と生活の実態把握 （必要に応じて面談やアンケートの実施）
2	・支援が必要な児童の実態把握	・支援が必要な生徒の実態把握
3	・後期の目標に対する評価と修正 ・個別の教育支援計画に反省と引継ぎ 記入、コピーを残して原本は保護者へ 渡す。（ことばの教室を含む） ・中学へ進学する児童の引継ぎ資料作成 ・次年度の学級編成（交流含む） ・教育課程の報告提出	・後期の目標に対する評価と修正 ・個別の教育支援計画に反省と引継ぎ 記入、コピーを残して原本は保護者へ 渡す。（ことばの教室を含む） ・高校へ進学する生徒の引継ぎ資料作成 ・次年度入学予定の生徒の支援の引継ぎ ・次年度の学級編成（交流含む） ・教育課程の報告提出

★詳しく見たい方→teams「全教職員」チャンネル「みんなの広場」☆多特別支援サロン

書籍の紹介☆

□「童話で学ぶ〇年の漢字」・ 井上憲雄 著 フォーラム・A 発行

コピーして使える漢字のプリント集で、小学校の1年から6年まであります。

既習漢字と新出漢字が織り込まれたオリジナル童話や、

漢字の読み、書きの練習プリントなど入っています。視写や漢字練習に！

早いもので、令和7年度がスタートしてから1か月が経ちました。みなさん、それぞれにお忙しい日々をお過ごしのことと思います。

さて、昨年度より、佐倉市志津(Cブロック)特コの会として「特別支援コーディネーター通信」を発行してまいりました。お蔭様で、この度第5号を配信させていただくこととなりました。この特別支援コーディネーター通信が、特別支援コーディネーターの先生方も、そうでない先生方にも、子ども達を指導・支援する上で少しでも助けになっていれば幸いです。

お時間がある時に、ご一読いただきますようよろしくお願いいたします。

「みんなの広場」☆特別支援サロン 開催報告

令和7年1月29日(水)に、第1回オンラインサロンを開催しました。当日は、小学校、中学校の先生方が参加していただき、ミニセミナーとフリートークを行いました。セミナーを聞いての感想や今後のテーマなどの話し合いができとても有意義な時間となりました。今年度も第2回目を6月11日(水)、第3回目を7月2日(水)開催予定です。準備ができましたら、お知らせしますので、ぜひご参加ください。

ミニセミナーは以下のような話がありました。

「ストレスフリーのマインドセット」

～子どもの行動問題に余裕を持って対応するマインドの作り方～

1 つい叱っちゃう10の理由

- ①一時的な効果が得られ、成功体験になっているから(日本行動分析学会)
- ②「叱れば人は育つ」と幻想を持っているから(竹中直人 2024)
- ③当たり前(前提)がそもそも間違っているから(川上康則 2023)
- ④ネガティビティ・バイアスがあるから
- ⑤人間の脳は「たくさんある」「ばらばらにある」状態が苦手だから(稲垣 2020)
- ⑥「権力勾配」が急になっているから(川上康則 2022)
- ⑦追い詰められ感から感情コントロールができなくなっているから
- ⑧フォールス・コンセンサスにハマったから
- ⑨「ナメられたくない」から
- ⑩「ちゃんとさせないと恥ずかしい」と思っているから(中川信子 2021)

2 8つのマインドセットの方法(「マルトリートメントを防ぐ 8つの行動指針」川上 2024)

- ①子どもとの対話を大切に、意見を聞く…「良かれ」は容易に「追い詰め」に変わる
- ②「こうあるべき」には「とらわれない」と自分に言い聞かせる
…「べき」は「足りてない」「届いていない」という思いを強くさせる
- ③ラポール(信頼関係)を重視する…ルールや圧でコントロールしようとしない
- ④過去に受けた指導やしつけは繰り返されるリスクがあることに気づく
…「理不尽に耐える」「俺も子どもの頃はこうされてきた」は
不適切な関わり方の正当化につながりやすいので注意
- ⑤「笑顔は無言の承認」と心得る…大人の不機嫌は、こどもの主体性を奪う
- ⑥「心の余白」を取り戻す…自分の指導・しつけは正しいという思い込みは危険
- ⑦「権威勾配」を緩やかにして横から関わる…「上下関係」「力関係」で一方向的に抑え込むのを止める
- ⑧ハームフルな関わりを選ばない習慣を新たに作る
…処罰の対象ではないが、無意識に子どもを苦しめている



【セミナー終了後のアンケートより】

- ・明日から心に留めておきたい内容で大変勉強になりました。リラックスして参加しやすく、ぜひ次回も参加したいと思いました。
- ・子供達の成長のために何が必要か…改めて考えることができました。とても良かったです。
- ・丁寧な資料、ありがとうございました。日ごろの指導を振り返る機会となりました。

部会費で購入した書籍の紹介

昨年度の部会費で以下の10冊を購入しました。コーディネーター通信で紹介させていただいた本も含め、さまざまな状況の児童・生徒達と関わる上で参考になるものです。

6月から10冊をA(5冊)、B(5冊)に分け、Aは学校番号1番の佐倉小学校から回し、Bは途中の17番の王子台小学校から回していく予定です。期間は目安として1校2週間とし、必要がなければすぐに次の学校へ回しても良いこととします。また本の受け渡しについては、教育委員会の文書BOXを使う形でも良いこととします。

せっかく購入していただいた書籍です。みなさんの共有財産として積極的に活用していただけたら幸いです。

現在、ブックカバーを準備中です。整い次第回覧を開始させていただきます。しばらくお待ちください。

No.	書籍名	著者	No.	書籍名	著者
1	発達障害・グレーゾーンの子がグリーンと伸びた声かけ・接し方大全	小嶋悠紀	6	SCAS スペンス児童用不安尺度	石川信一
2	「愛着障害」なのに「発達障害」と診断される人たち	岡田尊司	7	URAWSS II 基本セット	河野俊寛他
3	発達障害の人が見ている世界	岩瀬利郎	8	15歳までに始めたい発達障害の子のライフスキル・トレーニング	梅永雄二
4	ちょっとしたことでうまくいく発達障害の人が上手に勉強するための本	安田祐輔	9	発達が気になる子の学校生活における合理的配慮	鴨下賢一
5	マンガでわかる認知行動療法	大野 裕	10	LDの子が見つけたこんな勉強法	野口晃菜

アンケートのご協力をお願い

★この度、研修の振り返りをするにあたり、皆様にアンケートを実施させていただこうと考えています。下記のフォルダにフォームのアンケートが入っています。お忙しいところ大変恐縮ではありますが、5月16日までにお答えいただけると幸いです。ご協力をよろしくお願いいたします。

【 Teams 】

50 全教職員 > 一般 R7 一部会特別支援教育研修部 > 投稿 >

特別支援コーディネーター通信アンケート

気付けばもう少しで7月を迎えようとしています。夏休みまであともう少しです。
みなさん、もうひと踏ん張りです。体調に気を付けながら頑張りましょう！！



第2回「みんなの広場」☆彡特別支援サロン 開催報告

6月11日（水）に、第2回目のオンラインサロンを開催しました。

今回参加して下さった学校は4校で、参加者は7名でした。大変少ない人数ではありましたが、とても有意義な会であったと感じています。

今回のテーマは、小中の情報交換として、小・中学校先生方が日頃から疑問に感じていることを、一問一答方式で会を進めました。小学校からは、「中学校は、宿題や連絡帳はどのような扱いをしているのか。」「体操服で登校している姿を時々見かけるが、制服を着る場面のきまりはあるのか。」といった質問がありました。また、中学校からは、「小学校は、聴覚過敏のお子さんについて、運動会のスタートの雷管をどのようにしているのか。」という質問がありました。小学校は、3校の先生方にご参加いただいたので、それぞれの様子をお答えいただきました。

そんな中で、井野中学校の先生が、「中1ギャップに備える心構え」として、たくさんのスライドの資料をご用意してくださいました。「中1ギャップの背景として推定されている要因」や、「教師が子どもたちにやらないでほしいこと」、「子どもを勉強嫌いにする方法」などを詳しく教えてくださいました。私たち教師が日頃何気なくやってしまっているようなことが、勉強嫌いにさせているかも知れないと分かり、内心ドキドキしながら話をうかがっていました。個人的には、「小学校卒業時の目標としてほしい児童の姿」が、「勉強や学校は嫌いじゃないと言える子」、「大人って、困ったときに助けてくれるんだと思える子」であってほしいというお話が特に印象に残りました。井野中学校の先生が作ってくださった資料は、チームスの「みんなの広場☆彡オンラインサロン」に貼り付けてあります。また、別に中学校の特別支援学校についての説明を「生徒向け」と「保護者向け」の資料も入れてくださっていますので、ぜひお時間がある時にご一読いただけると嬉しいです。

第3回「みんなの広場」☆彡特別支援サロン 開催予告

第3回オンラインサロンを、7月2日（水）の16:40～より開催いたします。今回のテーマは、「教科指導について」です。日頃行っている国語や算数の授業（指導）が果たして正しいのか疑問をもちながら指導しているという意見が出されました。特別支援学級で、異なる学年がいる中での教科指導の在り方を学びたいとのことでした。できれば、ベテランの先生方にご参加いただき、日頃の実践を教えていただけると有難いです。また、経験が浅い先生方も日頃の悩みをお互いに話し合う中で、解決のヒントが見つかるとうれしく考えています。また、特別支援学級に限らず、通常学級の担任の先生方のお悩みも受け付けます。特別支援学級担任の中には、通常学級の担任を経験している方も数多くいらっしゃいます。その時の体験を聞くことで、解決のヒントが見つかるとうれいですね。



☆ オンラインサロンは、チームスの「みんなの広場」☆彡特別支援サロンからお入りください。多くの先生方のご参加をお待ちしております。どうぞよろしくお願いいたします。

資料4:対応事例…情報共有システムを利用し、随時誰でも書き込みができるようにした。

○目次

	A	B	C	D	E	F	G	H	I
1	目次								
2	学習編	ケース							
3	1	学習に集中できない	学1						
4	2	教室を飛び出してしまう	学2						
5	3	文字を読むことが苦手	学3						
6	4	字がうまく書けない	学4						
7	5	算数でつまづきがある	学5						
8	6	図工などの制作ができない	学6						
9									
10	生活編								
11	1	忘れ物が多い	生1						
12	2	思わず手が出てしまう	生2						
13	3	相手の気持ちが読めない	生3						
14	4	パニックを起こす	生4						
15									
16	出典：「ケース別発達障害のある子へのサポート事例集小学校編」上野一彦、月森久江.2010、ナツメ社								
17	イラスト	：同書、堀内さゆり							
18									
19									
20									
21									
22									
23									
24									
25									
26									
27									
28									
29									
30									
31									
32									
33									
34									
35									
36									
37									
38									
39									
40									
41									
42									
43									
44									
45									
46									
47									
48									
49									
50									
51									
52									
53									
54									
55									
56									
57									
58									
59									
60									
61									
62									
63									
64									
65									
66									
67									
68									
69									
70									
71									
72									
73									
74									
75									
76									
77									
78									
79									
80									
81									
82									
83									
84									
85									
86									
87									
88									
89									
90									
91									
92									
93									
94									
95									
96									
97									
98									
99									
100									
101									
102									
103									
104									
105									
106									
107									
108									
109									
110									
111									
112									
113									
114									
115									
116									
117									
118									
119									
120									
121									
122									
123									
124									
125									
126									
127									
128									
129									
130									
131									
132									
133									
134									
135									
136									
137									
138									
139									
140									
141									
142									
143									
144									
145									
146									
147									
148									
149									
150									
151									
152									
153									
154									
155									
156									
157									
158									
159									
160									
161									
162									
163									
164									
165									
166									
167									
168									
169									
170									
171									
172									
173									
174									
175									
176									
177									
178									
179									
180									
181									
182									
183									
184									
185									
186									
187									
188									
189									
190									
191									
192									
193									
194									
195									
196									
197									
198									
199									
200									
201									
202									
203									
204									
205									
206									
207									
208									
209									
210									
211									
212									
213									
214									
215									
216									
217									
218									
219									
220									
221									
222									
223									
224									
225									
226									
227									
228									
229									
230									
231									
232									
233									
234									
235									
236									
237									
238									
239									
240									
241									
242									
243									
244									
245									

特別支援の扉を開いてみませんか

☆特別支援オンラインサロン
みんなの広場



佐倉市の児童生徒の指導・支援に携わる私たちのための交流の場を用意しました。
実践のヒントや新たなつながりを見つける機会としてご利用ください。

2025年

1/29 (水)

16:40~17:30 (開場16:30)

Teams:全教職員:『みんなの
広場』☆特別支援サロン

参加費 無料

対象 佐倉市の教職員(支
援員、管理職歓迎)

お約束 ・途中入室自由・聞いただけ・顔出し無しも自由・チャットは常に開放(いつでも発言可能)
・チャット内で会話もよし・お好きな飲み物を片手に参加(推奨)
・温かいような心地よいサロンにすること

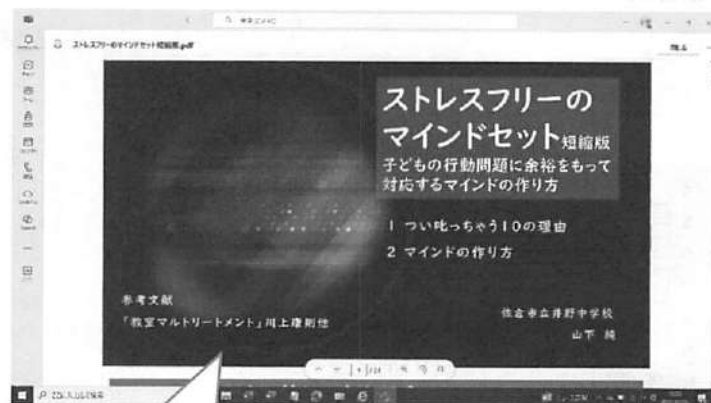
タイムスケジュール

16:40~ 開会
主催者によるオリエンテーション
16:50~ ミニセミナー
ストレスフリーのマインドセット
~子どもの行動問題に余裕を持って
対応するマインドの作り方~
井野中学校 山下 純
17:15~ フリートーク
感想交流や情報交換など。
参加者間で自由に交流できます

お問い合わせ先
志津ブロック特コの会
発起人:佐藤清美(上志津小)

参加お申し込みはこちら

<https://forms.office.com/r/QDhQ53Vh7m>



第1回オンラインサロン
ミニセミナー資料

・中学校の先生に聞いてみよう・小学校の先生に聞いてみよう

☆特別支援オンラインサロン
みんなの広場



中学校卒業後の進路は?小学校で身につけたい力は?中学校って厳しいでしょ?
小学校ではどんな配慮をしているの?就学前検診って何するの?就学指導の実践は?
実践のヒントや新たなつながりを見つける機会としてご利用ください。

2025年

6/11 (水)

16:40~17:30 (開場16:30)

Teams:全教職員:『みんなの
広場』☆特別支援サロン

参加費 無料

対象 佐倉市の教職員(支
援員、管理職歓迎)

お約束 ・途中入室自由・聞いただけ・顔出し無しも自由・チャットは常に開放(いつでも発言可能)
・チャット内で会話もよし・お好きな飲み物を片手に参加(推奨)
・温かいような心地よいサロンにすること ※児童生徒の個人名(情報)を出さないこと

タイムスケジュール

16:40~ 開会
主催者によるオリエンテーション
16:50~ 小中情報交換会(フリートーク)
小学校の先生が聞きたいこと
中学校の先生が聞きたいこと
(参加者間で自由に交流)
17:20~ ・ふりかえり、シェアリング
・主催者からのご案内

お問い合わせ先
志津地区特コの会
発起人:佐藤清美(上志津小)

参加お申し込みはこちら

<https://forms.office.com/r/ZJes8Ldtb7>



あの先生は日ごろどんな授業をしているのだろう?

☆特別支援オンラインサロン
みんなの広場

日常で生かせる
授業実践

研究授業ではない、日常の授業の工夫やアイデアを共有し合う場がここにあります!
意外と知らないお互いの授業の工夫を、ざっくばらんに気軽に話し合いませんか?

＜こんな方におすすめ＞

他の先生の授業実践を知りたい

自分の授業をもっと良くしたい

日常の授業で使えるアイデアを探している

気軽に情報交換したい

2025年

7/2 (水)

16:40~17:30 (開場16:30)

入室はコチラから
Teams:全教職員:『みんなの広場』
☆特別支援サロン

参加費 無料

対象 佐倉市の教職員(支
援員、管理職歓迎)

お約束

・途中入室自由・聞いただけ・顔出し無しも自由・チャットは常に開放(いつでも発言可能)
・チャット内で会話もよし・お好きな飲み物を片手に参加(推奨)
・温かいような心地よいサロンにすること ※児童生徒の個人名(情報)を出さないこと

16:40~ 開会

主催者によるオリエンテーション

16:50~

参加者間で自由に交流

17:20~

・ふりかえり、シェアリング
・主催者からのご案内

お問い合わせ先
志津地区特コの会
発起人:佐藤清美(王子小)

参加お申し込み不要。ふらっと立ち寄り歓迎